

5. 各業務の流れと操作手順

5. 4 随時処理

- 0 1. 料金番号とお知らせ文の設定
- 0 2. お知らせ番号初期化
- 0 3. 検針順更新 (未登録)
- 0 4. 検針順再番号 (未登録)
- 0 7. 請求書印刷データ削除
- 0 8. 得意先マスター一括コピー
- 0 9. 得意先マスター一括削除
- 1 0. 得意先マスター一括復旧
- 1 2. 売掛金の不正データ印刷
- 1 4. メニューファイルの更新
- 1 6. プログラムの更新
- 1 7. 電算機処理開始データ入力
- 1 8. 仕入処理開始データ入力
- 1 9. 請求締め処理 (印刷なし)
- 2 0. 商品コードの使用・未使用
- 2 2. リース請求データ作成 (当月)

5. 4. 1 料金番号とお知らせ文の設定

料金番号に対応したお知らせ文を設定します。設定しておくこと、ハンディ検針の際に、そのお知らせ文が印字されます。（但し、得意先マスタで、個別のお知らせが設定されている場合は、それが優先します。

(a) 画面

料金番号	お知らせ	件数
0914	基本料金=1000.00 数量範囲1= 0.0-999.9 単価1=270.00	
2000	4月検針より1m3当り30円(税別)値下します。今後とも宜しくお願い致します。	
0915	基本料金=1200.00 数量範囲1= 0.0-999.9 単価1=320.00	6
0916	基本料金=1050.00 数量範囲1= 0.0- 10.0 単価1=364.00	
0917	基本料金=1600.00 数量範囲1= 0.0-999.9 単価1=370.00	1
0918	基本料金=1500.00 数量範囲1= 0.0-999.9 単価1=330.00	70
0919	基本料金=1500.00 数量範囲1= 0.0-999.9 単価1=310.00	55
0920	基本料金=1200.00 数量範囲1= 0.0-999.9 単価1=305.00	1
0921	基本料金=1500.00 数量範囲1= 0.0-999.9 単価1=350.00	62
0922	基本料金=1429.00 数量範囲1= 0.0-999.9 単価1=336.00	15
0923	基本料金=1450.00 数量範囲1= 0.0-999.9 単価1=315.00	

(b) 操作方法

- ①得意先コード、検針日/検針順、検針担当で、範囲の指定を行います。
3種類とも指定してもかまいません。省略すると、全件が対象になります。
- ②料金番号と、基本料金、単価のスライド1番目が表示されます。
「次頁」「前頁」で画面のスクロールが可能です。
- ③適用したいお知らせの番号を登録します。（上例では、2000）
何も入力しない料金については対象になりません。

すでに登録されているお知らせ番号を「空欄」にすると、その設定は解除されます。

- ④「END」で、更新の確認を行います。

「Yes」とすると更新を開始します。

5. 4. 2 お知らせ番号初期化

料金表に設定されているお知らせ番号、または得意先に設定されているお知らせ番号を初期化して「未設定」の状態にします。

(a) 画面

お知らせ番号初期化

上書 20-11-09 お知らせ番号初期化 MSSOSIRA V200826

機能 1 1. 料金表初期化

2. 得意先初期化

料金番号

料金表と販売マスタのお知らせ番号をクリアします

(b) 操作方法

- ①機能を入力します。
 1. 料金表に登録されている「お知らせ番号」を初期化します。
 2. 得意先に登録されている「お知らせ番号」を初期化します。
- ②機能で、「1」を選択すると、料金番号の範囲指定が促されます。4桁の数字で入力して下さい。省略すると全部を対象にします。

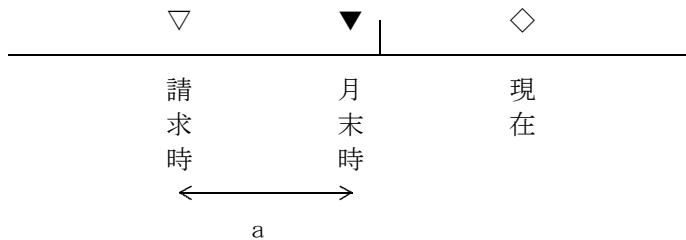
機能で、「2」を選択すると、得意先の範囲指定が促されます。省略すると全部を対象にします。
- ③「Enter」で、更新の確認を行います。



「Yes」とすると更新を開始します。

5. 4. 17 電算処理開始データ入力

コンピュータを導入して、マスターの作成が終わった後、売掛金、前回の指針の登録を行います。売掛金は、前月末時点と請求時点（検針時または請求書の発行時）の両方を入力します。請求時点は、得意先ごとにまちまちになりますから、最初に登録するときは、どちらも月末時点の金額でよいでしょう



上の図のように、請求時と月末時は異なります。もし、請求書を前回のものと連続して出力するならば、請求時の金額を両方に入力して、その後の売上／入金（aの区間）伝票を入力して、月末処理を1回実行しなければなりません。

システムの運用に入ってから、売掛金の入力誤りに気づいて修正する場合があります。そのときは、月末の売掛金と、請求時の売掛金は異なることに注意して入力して下さい。

指針の修正もできますが、メーターの交換時の入力は、ここでは行わず「保安管理」メニューの「メーター管理」で行って下さい。

(a) 画面

(b)

操作手順

- ① 得意先コードの入力
始めは、必ずコードで入力します。続けて次の得意先を入力するならば、PF2（コード順に

次)、PF3 (検針順に次) で順次入力することもできます。

② データの入力

任意の項目にカーソルを移動し、データの修正が行えます。但し、システムの運用に入ってから、むやみにデータの変更をしてはいけません。ここで、修正する場合は、他の方法では処理ができなくなってしまう場合だけにして下さい。

請求額の誤り	...	検針伝票の取り消し 請求書の発行取り消し
指針の誤り	...	検針伝票の取り消し
売上／入金の誤り	...	入力伝票の取り消し
割賦の取り消し	...	赤伝による割賦のマイナス売上。「割賦マスタ」の削除

月が変わってしまい、どうしても取り消しができない場合もあります。システムサポート者の指示により修正して下さい。

交換フラグは、メータ交換フラグを示します。通常、プログラムが自動的に処理します。

- ①メータ交換入力
検針用をON、配送用をON
- ②検針入力
検針用をOFF
- ③配送入力
配送用をOFF

料金単価／基本料金は、VER 6 以前との互換性用です。HT 1 8 0, HT 2 8 0 ハンディで検針している場合に使用できます。

P r e a では使用できません。

③ 「END」を押して、「確認」操作を行います。